

名古屋

電映博

2024

ゲストトーク

11月23日

『新写真論』との対話

私の中にいる座敷童をめぐって

大山顕

× 小鷹研理 (司会: 金井学)

の

ド

ミ

ー

!!



特設HP

2024

11.22 FRI - 24 SUN

22日 12:30~18:00

23日 12:30~19:00

24日 12:30~17:00

入場無料

注文の多い「からだの錯覚」の研究室展 3

ミーのドーン!!

名古屋市青少年文化センター・アートピア
(ナディアパーク内)、第一スタジオ (7階)、
7thCafe (7階)、ビデオルーム (8階)

【主催】 (公財) 名古屋市文化振興事業団 (青少年文化センター)

【企画・実施】 小鷹研究室 as (名古屋市立大学芸術工学研究科)

【参加メンバー】 佐藤優太郎・高橋奈里・加賀美果歩・須川莉名・田中創大

長谷川彩乃・山口真央・伊藤杏・宇佐美日苗・石原由貴・小鷹研理

【問い合わせ】 名古屋市青少年文化センター (052-265-2088)

名古屋市文化振興事業団 [青少年文化センター・アートピア]

身体が
ますます
わから
なくなる

11月23・24日

即錯ツアー



展示の概要

注目の多い「からだの錯覚」の研究室展が2年ぶりに開催されます！3回目となる今年のテーマは、その名も「ミリーのドーン」。

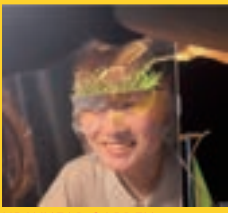
錯覚という演出された空間の中で、いかにして演出から逸脱した「事件」を設計するか、この種のアポリアをめぐる考察された小鷹研究室asによるオリジナル錯覚の多くが体験可能なたちで展示されます。ここ数年、テレビや雑誌で紹介されてきた、皮膚を大胆に引き延ばすスライムハンド錯覚・ブツダの耳錯覚、頭の中に手が侵入するXRAY体験のほか、HMDを使った新しい錯覚体験が目白押しです。鏡などの簡単な道具だけで体験できる即錯ツアーも開催します。この機会をお見逃しなく！

11月23日に開催されるゲストトークは「写真論との対話」として、今夏『撮るあなたを撮るわたし』が発刊されたばかりの写真家・大山頭をお迎えし、本展を主宰する小鷹理理とのゲストトークを行います。こちらは定員が埋まり次第、締め切ります。興味のある方はお早めにご予約を！

[展示予定作品]



DRUMMED HEAD



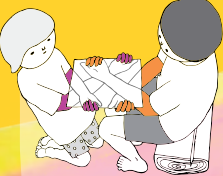
XRAYHEAD GARDEN



幽霊との対面



SLIME HAND XR



スペシャルプログラム

11/22・23

即錯体験ツアー
身体がますますわからなくなる

1500円 (学生は1000円) 11/23 16:00~18:00

ゲストトーク
『新写真論』との対話
私の中にいる座敷童をめぐる

団地マニア・工場萌えなどの写真で知られていた大山頭は、2020年にスマホ時代の写真論をめぐるテキストとして『新写真論』を発表し、各所で大きな話題を呼びました。手軽となった現代のスマホによるカメラの撮影は、人間が（自己を含んだ）風景を日常的にどのように受容しているかの様式に、かつてないほど内薄しています。大山のテキストは、いまや誰もが覚えのあるスマホのカメラワークを通して、かえって、今も昔も変わらぬ人間の普遍的な自己認識のフォーマットの特殊性を、鮮やかに炙り出します。こうした領域を越境する考察の中には、小鷹の近刊『からだの錯覚』『身体がますますわからなくなる』の問題意識と響き合うものが少なくありません。

本ゲストトークでは、写真論と錯覚論の交差する場における自己のリアリティの諸問題について、(大山の著作内で言及される)自己に宿る内的な撮影者としての「座敷童」を足から幅広く議論します。前回に引き続き、世界各国で制作を行うアーティスト金井学が司会を務めます。



日時: 11月23日 (16時00分~18時00分)
司会: 金井学 (アーティスト)
登壇者: 大山頭 (写真家、ライター)、
小鷹理理 (からだの錯覚の研究者)
定員: 最大で30名程度を予定 (申込は特設HPより)
料金: 1500円 (学生は1000円)
特典: 即錯Tシャツ1000円引きチケット
(Tシャツの定価は3000円を予定)
場所: 7th Cafe (ナディアパーク 7F)

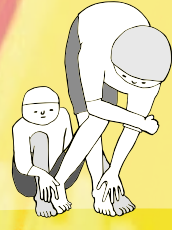
今年は4種類あるよ



小鷹研究室asでは、計算機の力を借りずに、鏡や日常の用品を使って即席に体験が可能な錯覚(即錯)を多数発表してきました。研究室の学生は、日々の研究の中で、人間が認知的に身体イメージをいかに形成するかをさまざまな心理実験を通して検証しています。本ツアーでは、これまでに発表した主な即錯を順次体験していくとともに、それら錯覚体験が有している心理学的な含意の解説も合わせて行います。2023年9月号の『子供の科学』で特集された錯覚も多く扱います。親子での参加も大歓迎!!

無料

日時: 13時~、14時30分~ (最大50分程度)
講師: 佐藤優太郎・高橋奈里ほか (名古屋市立大学芸術工学研究科)
定員: 各回最大で10名程度 (予約不要: 当日、定員が埋まり次第、締め切ります)
料金: 無料
場所: 7th Cafe (ナディアパーク 7F)



[アクセス]

名古屋市青少年文化センター



〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3-18-1
地下駐車場有り

【電車の場合】(名古屋駅より) 名古屋市営地下鉄東山線・藤ヶ丘・星ヶ丘方面で「栄駅」下車 (所要約4分)・7-8番出口より徒歩(7分)。あるいは「栄駅」で名城線・左回りまたは名港線・名古屋港方面行に乗換え、「矢場町駅」下車 (所要約2分)・5-6番出口より徒歩(5分)。

2021年、ICC(新宿)において、ICC オープンスペースに「2021「ニューフラットランド」」に参加し、半年にわたって「小鷹研究室の錯覚展」2016・20・21「頭部解放宣言」の展示を行う。関連イベントとして、同会場で、オープニング「頭部解放前夜」を実施。2023年には「わたしの身体は心になる?」展(東京有楽町)に小鷹研究室asとして参加するなど、首都圏での展示にも積極的に参加。



(大山頭, 2024.07)

2017年以降、アジア最大のコンベンチナ技術の祭典「Singapore Asia」のXR系部門に7つの錯覚装置を出展。2022年にはXRAY HEADが受賞、国内ではXRAYエイティブアワードにおいて4つの作品がファイナリストに選出されるなど、XRシステムによる錯覚設計において確固たる実績を持つ。また、世界錯覚コンテストにおいても、2019年より大会連続で、のべ5作品がトップ10入りを果たす。これら錯覚の心理学的効果は海外の学術論文の中で検証されるなど、オリジナルの即錯体験を国内外で積極的に発信され、これまでに旭川市科学館サイバル(現在常設)、名古屋市科学館(企画展)などで展示される。

研究室の主宰者である小鷹理理は、2019年に認知科学会より第7回野島久雄賞を受賞。2023年に講談社ブルーバックスより『からだの錯覚』を上梓。2024年には『身体がますますわからなくなる』(和書)を出版。これらの出版と前後して、雑誌「子供の科学」で巻頭画が組まれたほか、ZINE「おはよう日本」でも特集が組まれるなど、様々なメディアで「からだの錯覚」が紹介される。(NHK WORLD、NHK、日本テレビ、テレビ朝日、テレビ東京、週刊現代、朝日新聞、毎日新聞、中日新聞など)。



Self-Umbrelling, 2018

小鷹研究室 as

「からだの錯覚」を中心テーマとして標榜している、日本ではおそくは唯一の研究室。研究テーマは、身体変形、空洞身体、幾何学的身体、幽体離脱、セルフタッチ、身体の内面化など多岐にわたる。昨今、目まぐるしく刷新を繰り返すバーチャル・リアリティ(VR)技術を積極的に導入し、「具体的に体験可能なインタラクティブな装置」のなかで設計された「一見すると真実な「からだ」のリアリティを、様々な尺度で検証する。院生数人の少数規模のラボ形態を維持しながら、質の高い錯覚装置を多数設計し、毎年国内外の様々な展示に出品するだけでなく、自らも錯覚展示を定期的に企画する。

2015年より、毎冬に研究室展示「からだは戦場だ」をややなせ倉庫・ピクチャーで開催。5回目を迎えたが、これは戦場だよ2018Δボディエクト思考法」では、過去5年の総決算として、3日間をわたり、展示に加えて、ワークショップ・レクチャーを開催し盛況を得た。2020年より、戦場の展示スタイルを「名古屋電映博」のフォーマットに引き継ぎ、名古屋・栄を舞台に「注文の多いからだの錯覚」の研究室展として2年ごとに開催(過去のゲストに、谷口暁彦、水野勝仁、伊藤雄雄)。

